

生存圏ミッションシンポジウム

2014年3月10日(月)・11日(火)
 京都大学宇治キャンパス
 京阪黄檗駅・JR黄檗駅より徒歩10分

来聴歓迎・参加無料

3月10日(月) 京都大学宇治地区総合研究実験棟4階 遠隔会議室 HW401

10:00-10:10 挨拶：津田敏隆(京都大学生存圏研究所 所長)

10:10-11:30 生存圏ミッション専攻研究員 成果報告

10:10-10:30 「大気微量成分観測に基づく対流圏成層圏大気輸送過程の評価」 稲飯 洋一

10:30-10:50 「『糖化されやすい』セルロースの化学構造特性と酵素との相互作用に関する研究」 堀川 祥生

10:50-11:10 「新規有用木質を産生する大型イネ科植物の作出に向けた基盤研究」 山村 正臣

11:10-11:30 「木材の抽出成分による健康影響に関する評価研究」 松原 恵理(現：森林総合研究所)

(昼休み)

12:50-15:45 開放型研究推進部 活動報告

12:50-12:55 MUレーダー/赤道大気レーダー(EAR)活動報告

12:55-13:10 「Small scale turbulence observed simultaneously by the MU radar, radiosondes, and Rayleigh lidar」

Hubert LUCE (South Toulon-Var University), 橋口 浩之(京都大学生存圏研究所)

13:10-13:15 先端電波科学計算機実験装置(A-KDK)活動報告

13:15-13:30 「科学衛星近傍のプラズマ電磁擾乱に関する大規模粒子シミュレーション研究」

三宅 洋平(神戸大学大学院システム情報学研究科)

13:30-13:35 マイクロ波エネルギー伝送実験装置(METLAB)活動報告

13:35-13:50 「無線通信や無線電力伝送技術を支える小型アンテナの開発」 松永 真由美(愛媛大学大学院理工学研究科)

13:50-13:55 木質材料実験棟 活動報告

13:55-14:10 「実験住宅床下における種々の粒子物理バリアのシロアリ貫通阻止性能評価」 築瀬 佳之(京都大学大学院農学研究科)

14:25-14:30 居住圏劣化生物飼育棟(DOL)/生活・森林圏シミュレーションフィールド(LSF)活動報告

14:30-14:45 「温帯の土壤生態系におけるシロアリの役割」

吉村 剛(京都大学生存圏研究所), Brian Forschler (The University of Georgia)

14:45-14:50 持続可能生存圏開拓診断(DASH)/森林バイオマス評価分析システム(FBAS)活動報告

14:50-15:05 「植物芳香族香気成分の成分分析と生理活性評価」 肥塚 崇男(山口大学農学部)

15:05-15:10 先進素材開発解析システム(ADAM)活動報告

15:10-15:25 「電子顕微鏡でみるセルロースの生合成・生分解」 今井 友也(京都大学生存圏研究所)

15:25-15:30 生存圏データベース 活動報告

15:30-15:45 「年輪年代学研究における材鑑標本の活用とデータベース化に向けた取り組み」

大山 幹成(東北大学学術資源研究公開センター植物園)

16:00-16:45 生存圏フラッグシップ共同研究 成果報告

16:00-16:15 「バイオマス・物質変換のためのマイクロ波高度利用共同研究」

檜村 京一郎(篠原 真毅 代理)

16:15-16:30 「熱帯産業林の持続的生産利用に関する多角総合的共同研究」

梅澤 俊明

16:30-16:45 「バイオナノマテリアル共同研究」

矢野 浩之

京都大学生存圏研究所 木質ホール3階

17:15-18:15 生存圏学際萌芽研究センター 共同研究ポスター発表

生存圏ミッション研究：24件 生存圏科学萌芽研究：16件

ミッション専攻研究員：5件

3月11日(火) 京都大学宇治地区総合研究実験棟4階 遠隔会議室 HW401

10:30-11:50 生存圏研究所ミッション活動紹介

10:30-10:50 ミッション1：環境計測・地球再生

塩谷 雅人

10:50-11:10 ミッション2：太陽エネルギー変換・利用

篠原 真毅

11:10-11:30 ミッション3：宇宙環境・利用

山川 宏

11:30-11:50 ミッション4：循環型資源・材料開発

矢野 浩之

連絡先：京都大学生存圏研究所生存圏学際萌芽研究センター 矢野 浩之

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 TEL: 0774-38-3669 E-mail: yano@rish.kyoto-u.ac.jp

Research Institute for Sustainable Humanosphere, Kyoto University